

(3) 都市系景観資源

都市系景観資源とは、大規模建築物・橋・道路・住宅地・工業団地など現在の産業、文化、生活を反映する土地利用、交通網、建築物等の都市系資源を言います。

横手市には、都市景観形成にも大きく関連する都市の骨格となる幹線道路として、国道13号や107号、県道の横手大森大内線、湯沢雄物川大曲線、野崎十文字線、広域農道である雄平フルーツラインなどのほか、高速道路である秋田自動車道と湯沢横手道路が通っており、横手インターチェンジと十文字インターチェンジがあります。また、市役所本庁舎前を通る富士見大通りは、横手市のイメージを形成する重要な軸として、良好な沿道景観を形成しています。

鉄道はＪＲ奥羽本線と北上線が通っていますが、その結節点となるＪＲ横手駅が平成23年にリニューアルされ、駅周辺を中心とした市街地のシンボリックな景観となっています。このほか横手地域には、大規模な公共公益施設として市役所本庁舎・かまくら館・Ｙ²（わいわい）ぷらざ・市民会館・病院などが集積しており、景観形成に大きな役割を果たしています。



■国道 13 号（横手地域）

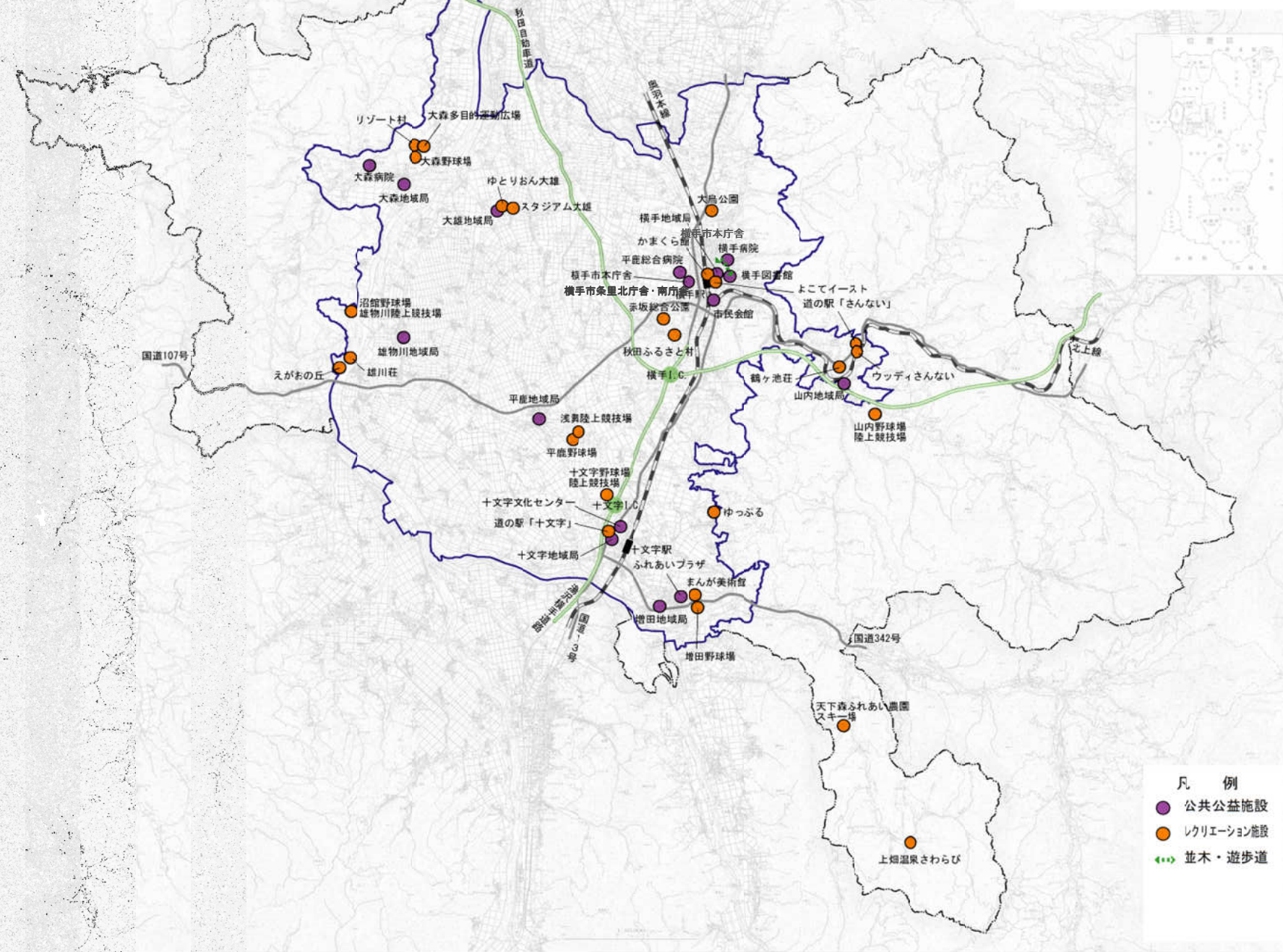


■富士見大通り（横手地域）



■かまくら館（横手地域）

■都市系景観資源図

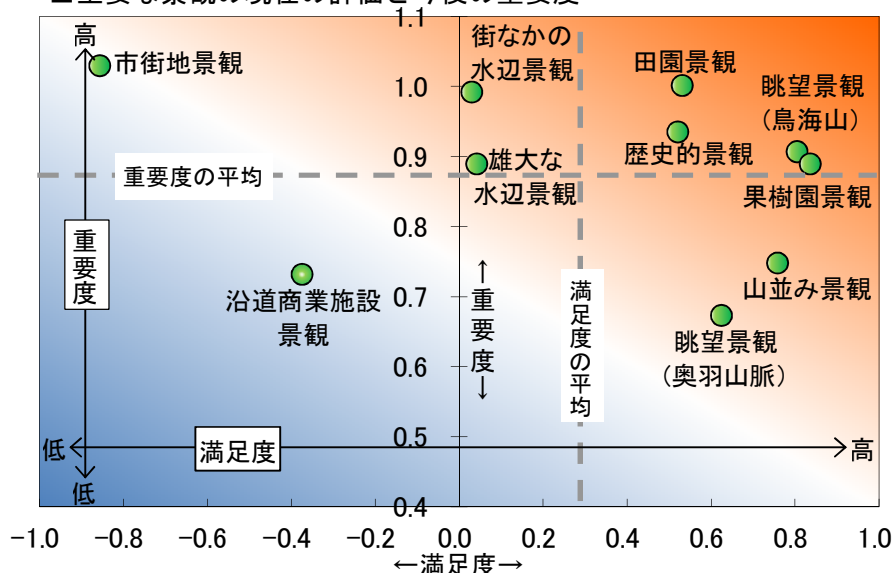


3. 景観に関する市民意向

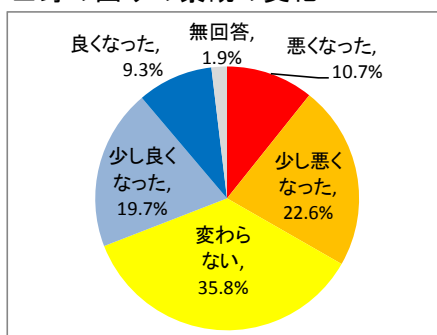
平成22年に20歳以上の市民3,000名を対象に実施した「横手市景観まちづくりアンケート調査」では、「田園景観」「歴史的景観」「眺望景観（鳥海山）」「果樹園景観」などの自然的景観については、現在の評価、今後の重要度ともに高い傾向にあります。「市街地景観」については、現在の評価は低いものの、今後の重要度が高くなっています。

そして、回答者の約3分の1が身の回りの景観が10年前と比べて「悪くなった」あるいは「少し悪くなった」と回答しており、約3分の2が「景観づくりのルールが必要」と回答しています。さらに、景観づくりのルール以外に、良好な景観づくりのために必要な施策として「森林や河川などの自然を保全する」「良好な景観に配慮した公共施設を整備する」「景観上重要な建築物や樹木を保全する」などが多く挙げられています。（アンケートの詳細については資料編をご確認ください）

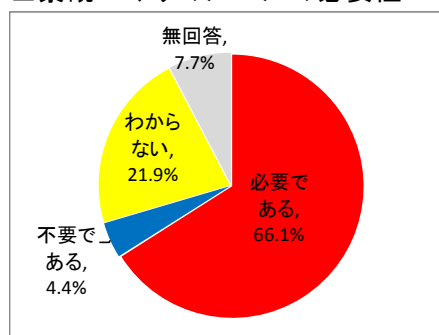
■主要な景観の現在の評価と今後の重要度



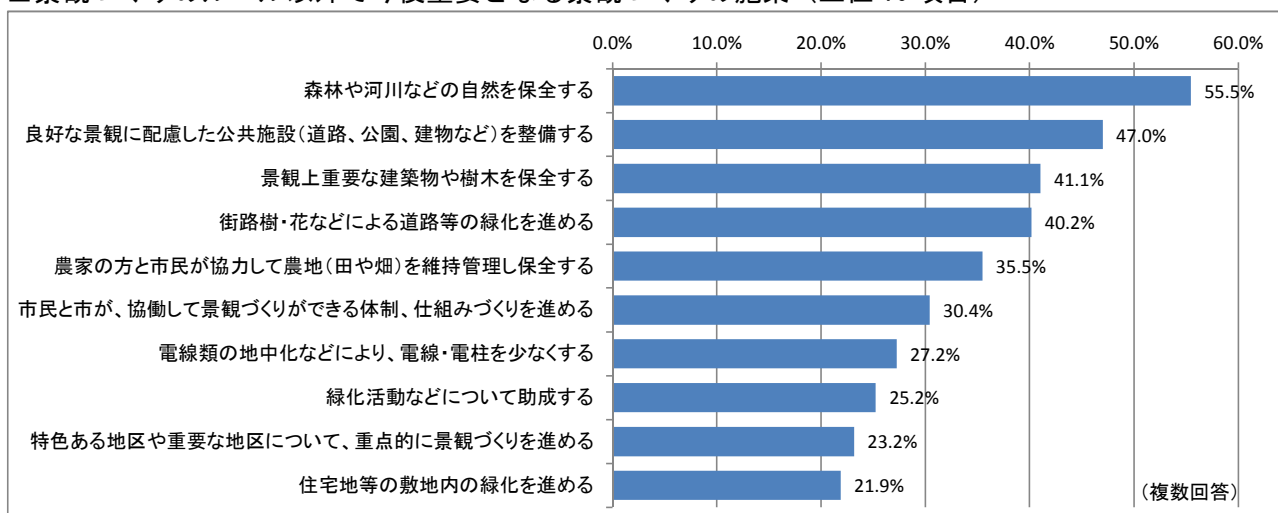
■身の回りの景観の変化



■景観づくりのルールの必要性



■景観づくりのルール以外で今後重要となる景観づくりの施策（上位10項目）



4. 景観形成の課題

(1) 自然景観に関する課題

①奥羽山脈などの山並み、雄物川水系などの「山と川」の景観の保全

- ・東の奥羽山脈、西の出羽丘陵の一部でもあり、ブナの天然林などの貴重な自然環境が広がる保呂羽山などの県自然環境保全地域がある山林地域は、多様な生き物の生息環境であるとともに、成瀬川や皆瀬川、横手川などの水源地、稜線として横手市の骨格となる景観を形成するなど多様な役割を果たしています。アンケート調査でも、今後の重要な取り組みとして「山林や河川などの自然を保全する」が最も高くなっていることから、自然景観を形成する山林、河川などの自然環境の保全が求められます。
- ・市街地の周辺には、コナラ群落、スギ植林などの里山が広がっていますが、生活様式の変化などから手入れされない山林の増加が懸念されます。アンケート調査でも荒廃した山林が景観の課題として挙げられています。今後も人口減少、高齢化が進む中で、里山保全のための適切な維持管理が必要です。

②眺望景観の保全

- ・横手盆地の中央に位置し、東の奥羽山脈、西の出羽丘陵の山々に囲まれている横手市では、これら山々の眺望や、東西の丘陵地から眺める横手盆地の眺望が、市民からも評価を受ける良好な景観となっています。代表的なものとして、横手盆地から眺める鳥海山、焼石岳、奥羽山脈、逆に、雄平フルーツラインや三森山などの丘陵地、横手公園、雄川荘、えがおの丘などの丘陵地にある施設から望む雄物川、市街地・農地などの眺望があります。特に鳥海山や雄物川は市内の多くの校歌でも歌われている要素であり、景観的なシンボルであるといえます。これらの眺望景観を保全するための取り組みが求められます。

③農村景観の保全と景観的な視点からの遊休農地対策

- ・横手市の面積の約30%が農用地となっており、米やりんごなどの栽培が盛んです。しかし、担い手の減少などにより経営耕地面積が減少傾向にあり、遊休農地の増加などが懸念されます。アンケート調査でも、田園や果樹園の景観が評価されている一方で、利用されていない農地や果樹園が「良くない景観」として挙げられ、手入れのされていない農地や果樹園が増えることで、身の回りの景観が「悪くなった」と感じています。農業従事者の高齢化や担い手不足により、今後も景観の悪化が懸念されることから、農地の適切な維持管理による保全が求められます。

④屋外広告物などの工作物による田園景観の阻害

- ・幹線道路の沿道には、屋外広告物の掲出とともに、遊休農地に置かれた資材などがあり、また、周囲の景観に馴染まない工作物の立地、土地利用により田園景観が損なわれているところが見受けられます。そのため、道路、鉄道などの沿線における広告物や土地利用に関する景観誘導が求められます。

(2) 歴史・文化景観に関する課題

①歴史的な建物・樹木の保全

- ・横手地域の羽黒町・上内町地区の街並みや増田地域増田地区の内蔵を含む街並みなどや、伝統的な建築様式による住宅、地域のランドマークとなっている古木・大木などが散見されます。アンケート調査でも、景観づくりルールの設定に必要な取り組みについて「歴史的な建築物の保全」が最も多く、今後重要となる施策としても「景観上重要な建築物や樹木の保全」があげられており、市民の関心が高いといえます。このような横手市の歴史・文化を伝える歴史的な建築物、樹木の保全が求められます。

②観光客の増加につながる景観の形成

- ・横手市の人口が減少する中、観光客などの交流人口は増加傾向にあります。今後、地域の活力の維持・向上を図る上では、交流人口の拡大が重要な要素となります。かまくら・ぼんでん・送り盆まつりなどの伝統行事、横手地域の羽黒町・上内町地区の街並みや増田地域増田地区の内蔵を含む街並みなど歴史的な街並みの保全とともに、観光資源などとの調和のとれた良好な景観形成が求められます。

③景観的に問題のある空き家の現状

- ・横手市の人口は減少傾向にあり、市内には多くの空き家があり、今後も増加が懸念されます。アンケート調査でも、身の回りの景観が「悪くなった」と感じることで、「老朽した住宅、空き家など」が最も高い値を示しており、景観的な対策が求められます。

(3) 都市景観に関する課題

①商業などの活力との調和の取れた景観形成

- ・各地域の市街地は、商業・業務施設や住宅など用途の異なる建物が混在しています。市内の商業事業所数は年々減少傾向にあり、空き店舗も増加しています。アンケート調査でも商店街の空き店舗が増えることが景観の問題として挙げられています。
- ・市の玄関口である横手駅周辺や市街地内には、商業・業務施設が立地していますが、建築物や広告物の高さや色彩・デザインなども様々であり、統一感のない市街地景観が形成されており、商業・業務の賑わいとの調和の取れた景観づくりが求められます。
- ・インターチェンジ周辺などの郊外部においては、大規模小売店舗が立地し、建物や広告物の色彩など周囲の景観と調和しないものも見られることから、景観的な対策が求められます。

②民間の景観形成を誘導する公共公益施設の景観的な配慮

- ・民間の景観形成を誘導する上で、先導的な役割を担う公共公益施設における取り組みは重要であると考えられます。一部の公共公益施設においては、形態や色彩など景観的な配慮がすでに見られることから、全市的に継続的な取り組みが求められます。

③街なかの緑や水辺の保全

- ・道路沿いや公園などの花壇や桜並木、ため池や河川などの身近な緑や水辺に対する景観的な評価が高いことから、今後とも市民や事業所の参加による維持管理に取り組み、彩りとうるおいのある景観の保全が求められます。

④景観に対する意識の啓発

- ・「横手市景観まちづくりアンケート調査」では、景観に関する活動参加状況については、「自分の家や事業所を緑化」「身近な美化活動」についてはすでに活動している方が多くなっています。しかし、「歴史的な建物や緑を守る活動に参加」「イベントに参加し身近な景観を知る」「公園整備などを検討する場に参加」などについては、今後も活動したいと思わないという割合が高く、活動の内容によっては活動意欲が低い傾向にあります。
- ・また、同調査では、景観づくりルールについては、60%以上の方が必要であると認識しています。景観に関するルールが適用される場合に協力できることとしては「敷地の緑化」の割合は高いものの、「建物の高さやデザイン」などの項目については消極的であり、良好な景観形成に向けた意識の啓発と主体的な取り組みが求められます。

■ 景觀に関する課題図

